

2018 道東ブロックトレセンU-11 in 十勝

文責 根室地区トレセンU11 茂木直矢

1. 開催日 平成30年5月19日(土)・20(日)
2. 会場 士幌町陸サッカー場
3. 参加者 選手 20名
指導者 2名(歯舞FC・成田コーチ 茂木)
4. 結果 3勝2敗(交流戦 1分)

【5月19日対戦カード・勝敗】

根室 VS 網走 5-3 ○(前半3-0、後半2-3)
根室 VS 十勝B 2-3 ●(前半2-1、後半0-2)
(交流戦)
釧路 VS 根室 1-1 △(前半1-1、後半0-0)

【5月20日対戦カード・勝敗】

根室 VS 十勝A 3-2 ○(前半3-1、後半0-1)
根室 VS 釧路 2-5 ●(前半2-1、後半0-4)
根室 VS 十勝B 2-1 ○(前半2-0、後半0-1)

5. 分析

今年2月の「2017 道東ブロックトレセンU-10 in 十勝」でも課題として取り組んだ、ボールホルダーへの前線からの早いプレスを主要テーマとして、トレーニングと試合を行った。

トレーニングでは1対1を基本に守備における優先順位を確認し、バスカットを狙う、球際での強いコンタクト、シュートブロック等、それぞれのシチュエーションに応じた適正な距離を意識させボールを奪い攻撃に繋げることを主眼に取り組んだ。試合では、2-4-1のフォーメーションを採用。FWとMFの前線からのプレスにより、パスコースを限定させ第2、第3DFでボールを奪い、ワントップの動きにより生じたスペースを活用し得点へと繋げることが出来た。中盤の人数が多いことから、縦への攻撃が難しい時には並行パス、またはサイドチェンジにトライする場面もみられ、縦だけではなく横幅を使いながら質の高い攻撃を展開することが出来た。

しかし、ボールを足元に止めてしまう場面も見受けられ、ボールを奪われピンチとなる状況や失点するシーンもあり、動きながらのボールコントロールについては、継続して技術トレーニングの強化が必要と感じた。また、前線からのプレスにより生じるMFとDFのスペースを無くすためDFラインを上げコンパクトなバランスを保つことと、DFラインに連動したGKのポジショニングについては再三の修正を要した。オフザボール時にボールウォッチャーになってしまうことが習慣となってしまう前線にパスを供給した後、その場に立ち止まってしまう傾向にある。特にDFのオフザボール時における攻撃への関わりについては、継続した意識改善が必要と感じた。

6. 課題

- (1) 世界基準を日常に！！（プレースピード・球際など）
- (2) サッカー理解（原理・原則に基づいたサッカー理解）
- (3) 個のテクニックの構築
- (4) 観る・予測・判断・実行
- (5) 関わり・サポートの質
- (6) チャレンジ・カバー・バランスのポジション調整
- (7) GK基礎・シュートストップの構築

7. まとめ

全試合において前半は勝っているが、後半に負け越しの結果となっている。一試合を通じ全選手の戦術理解と目的の共有が必要だと改めて感じました。そして、今回の遠征で感じたそれぞれの課題に対し、選手が自チームに戻っても高い意識を持ちながらトレーニングに取り組んでくれることで、他選手にも良い刺激を与え根室地区全体の選手層に厚みを持たせていけたらと思います。